

来年度に向けて

私が岩手県山田町に先入りして【みえ発！ボラパック】第1便を出迎えたのが4月29日。

それから東北に向けて36便、また、台風12号災害による地元三重での災害対応のために16便のボラパックを運行することができました。

本当に多くの方の支えあつての、みえ災害ボランティア支援センターでした。

組織立上げ前から飛び回ったNPOの仲間達。みえ宣言に賛同頂いた発起人のみなさま。官民協働の体制作りやボランティア保険手続き、ボラパックの送り出し等に奮闘した幹事会メンバー。ガソリンや情報が不足する中、軽タンク車まで確保し現地入りした先遣隊第1陣。山田町災害ボランティアセンター起ち上げスタッフとして早朝から深夜まで汗を流した先遣隊2,3,4陣。物資や資機材・支援金を寄付頂いた企業や団体、個人の方々。長期現地滞在してみえボラの受け皿となった二瓶様。公私の別なく裏方として動いた事務局ボランティアのみなさまやスタッフ達。その他この紙面でとても語り尽くせない程です。

特に、自身も被災しながら三重からのボランティア受入にご尽力頂いた山田町の町役場や社会福祉協議会、観光協会や商工会、そして住民のみなさま。ボランティア活動は一方の想いだけでは成り立ちません。みなさまが受け入れてくださったからこそこの活動ができました。

そして、ボラパックに参加して頂いたみえボラのみなさま。みなさまがチームとして繋いだ心のバトンは確実に現地の方々に届いています。中でもリーダー・サブリーダーなどの役割を担っていただいたみなさま、本当にありがとうございました。

東日本の復興に向けた取り組みはこれからも続きます。特に一人ひとりの心の復興のためには、いまだ続く災害の中に身を置く事が日常になってしまっている東北の方々、また、ふるさとから離れ三重に一時避難せざるを得なかった方々にとって、ひととき災害を忘れて過ごせる非日常の時間が大きな意味を持つと考えています。

具体的に当センターでは、現地へ向かう支援として【みえ発！ボラパックⅡ】、三重県内に一時避難した方々への支援として【みえで仲間をつくり隊！】を二本柱に2012年度も取り組みます。

昨年のボラパックは個人ボランティアで編成し、現地災害ボランティアセンターのニーズにそった復旧・避難生活支援を行っていただきましたが、今年のボラパックⅡでは東北の方々と『共通の趣味』を通じて友達の輪を広げる事ができるボランティアのみなさんを募集いたします。これまで「力仕事は不安」などと敬遠していた方々にこそ、ぜひボラパックⅡに参加して津波被災地の現状と、復興に向けて取り組む東北の方々に直に触れ、友達になって頂きたいと思っています。これこそが「忘れない」「寄り添う」ことに繋がるひとつの方法ではないでしょうか。

一方、【みえで仲間をつくり隊！】は去年の活動を継続すると共に、県内で活動する他団体とも連携しながら、三重での仮暮らしの不安が少しでも減り安心して生活できるよう、一時避難者同士や地域と繋がる場を広げていきます。みなさんのそばにも一時避難されている方々がいらっしゃいます。ぜひお力を貸してください。

みえ災害ボランティア支援センターはボランティア活動の主役ではありません。裏方に徹して、東北の方々の声に耳を傾けながら、東北の方々と三重のみなさまが共に笑顔になれるボランティア活動が展開されるようお手伝いしていきたいと考えています。

平成24年2月11日

みえ災害ボランティア支援センター長

山本 康史

